

検証テーマ(案)について

現行の県立高校将来構想期間における取組		新県立高校将来構想の目指す姿	当該取組に関する問題意識等 (第1回審議会での論点)	検証テーマの候補(案)	左を検証する際の主な切り口(イメージ)	備考(諮問理由等)
施策目的	取組施策					
多様な生徒の実態に対応して、各学校が生徒それぞれの個性を最大限伸ばせる高校づくりをする。	<ul style="list-style-type: none"> 特色ある学科の設置 総合学科の設置 単位制高校の設置 専門学科の設置・改編 全日制高校の充実 多様な選択教科・科目の開設 社会動向・産業構造変化に対応した教育課程の見直し 体験学習の一層の充実 定時制高校・通信制高校の充実 40人未満学級編成の検討 昼夜間定通併修独立校の設置 中高一貫教育・中高連携教育の推進 中高一貫教育校の複数設置 中高連携教育の普及促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○学科の設置、改編 ○学校再編、学科改編による教育環境・教育内容の充実 	<p>【検証の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校の活性化につながる検証を。 <p>【検証の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○義務教育と高等教育、地域社会とのつながりを踏まえた施策となっているか。 ○必要な教育体制(教員のスキルが不足している教育分野での社会人の活用、就職指導教員の数・質)は確保されているか。 ○教育の「質の保証」が担保できているか。 ○制度的な枠組みの改革が、学校及び教育の充実につながる制度設計となっていたか。 ○必要なハードウェア、ソフトウェアが整備されているかどうか。 ○宮城県独自の多様性をどれだけ打ち出せているのか。 ○学校再編や学科改編に際し、地域との関係づくりはどうか。 ○「宮城の将来ビジョン」(県の総合計画)の整合が取れているか。 <p>【検証手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前工程としての小中、後工程としての大学・企業側からの評価も必要。また全体を通して地域からの評価も必要。 【制度設計・施策展開における要望等】 ○「社会経済環境が大きく変化中、自らの進路を切り拓ける人材を育成する」施策は重要。 ○学校再編に当たって、通学手段の確保に配慮してほしい。 	(1) 普通教育・専門教育の体制整備について	<ul style="list-style-type: none"> ○産業構造・地域の教育ニーズを踏まえた学校づくりがなされてきたか。 例)学科改編・教育課程の見直し等による卒業後の進路状況・受入企業の評価の変化 ○多様な生徒それぞれの個性に対応した学校選択・教育機会が確保されているか。 例)普通科・専門学科等の教育課程、配置バランス、学力階層に応じた教育課程の編成、通学時間 等 ○学校再編によって活力ある学級規模が維持されているか。 例)学級規模別状況(部活動・図書蔵書数・教員一人当たり持ち時間数・生徒一人当たり運営経費等) 等 ○「宮城の将来ビジョン」(県総合計画)との整合性が取れているか。 	【諮問理由から関連部分抜粋】 (前略)普通教育や専門教育の体制整備など社会の変化や時代の要請を踏まえて、その方向性を常に点検していく必要があるものについて、(中略)諮問するものです。
活力ある学級規模を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> 全日制高校の適正配置 1学年6学級規模校の各地区配置 1学年1～2学級規模校の原則再編 普通科率(総合学科含む。)の確保 定時制高校・通信制高校の適正配置 昼夜間定通併修独立校の設置 昼夜間開講定時制独立校の設置 					
多様な生徒の実態に対応して、各学校が生徒それぞれの個性を最大限伸ばせる高校づくりをする。(再掲)	<ul style="list-style-type: none"> 多様な個性・特性に対応した教育の推進 指導内容・方法、評価の工夫・改善 MAPの全体的導入 スクールカウンセラーの全校配置 生き方・在り方に踏み込んだ進路指導の充実 体験学習・職場体験の積極的導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○学力の向上 ○キャリア教育の充実(勤労観・職業観の育成) 	<p>【検証の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育の「質の保証」が担保できているか。(再掲) <p>【検証手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前工程としての小中、後工程としての大学・企業側からの評価も必要。また全体を通して地域からの評価も必要。(再掲) 【検証対象】 ○未来を担う人づくりに向け、志教育の充実に関わるものを検証対象とすべき。 【制度設計・施策展開における要望等】 ○キャリア教育の成果把握において、就職率だけでなく、どのようなコンピテンシーが身についたのか等も重要では。 ○「社会経済環境が大きく変化中、自らの進路を切り拓ける人材を育成する」施策は重要。 ○少数でも高度な議論のできるような教育改革を期待する。 	(2) 高校教育の質の保証について	<ul style="list-style-type: none"> ○高校教育の質の保証が確保されているか。 例)指導体制等の状況、適性にじた進路指導状況、学力保証面での中高連携状況 等 ○発達段階に応じた勤労観・職業観等が育成されてきたか。 例)学校・学科等別の体験学習・職場体験・MAP・進路指導等の実施状況、社会人・企業人の授業等活用状況 等 	
学校の説明責任を果たす。	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員制度の導入 学校の自己点検・自己評価システムの導入 生徒の授業評価の充実 学校自由見学日の設定 学校情報の積極的発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域のニーズに応える高校づくりの推進 ○学校経営の改善 	<p>【検証の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○検証では、各学校が役割を認識して、取組を充実させることが重要。 ○義務教育と同様に高校でも学級経営が重要。 <p>【検証の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○義務教育と高等教育、地域社会とのつながりを踏まえた施策となっているか。(再掲) ○必要な教育体制(教員のスキルが不足している教育分野での社会人の活用、就職指導教員の数・質)は確保されているか。(再掲) <p>【検証手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前工程としての小中、後工程としての大学・企業側からの評価も必要。また全体を通して地域からの評価も必要。(再掲) 【検証の対象】 ○コンセプトが打ち出されたHPになっているかも検証が必要。 【制度改革の評価】 ○保護者からは、学校の現状が全く見えない。 	(3) 学校経営について	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民に対する学校の説明責任が果たされているか。 例)学校自己点検・自己評価の状況、学校HP等の状況(認知状況)、地域・企業等との連携状況 等 ○教育資源が充足しているか。 例)教員配置状況、教員の資質、研修の状況、学校施設・設備の状況 等 ○地域の教育資源を有効に活用しているか。また学校の教育資源が地域等に提供されているか。 ○効果的・効率的な運営がなされているか。 	
教育諸条件を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 教職員配置等の検討 教員研修制度の充実 空き教室の有効利用 新学習要領に対応したPC整備・人材確保 	○教育環境の充実				
改築、学科改編、再編などの機に、すべて男女共学化を推進する。			<p>【検証手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題把握においては、プロセスマネジメントの観点があるかと思う。 <p>【検証対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「男女共同参画に向けた取組」など、価値判断が入る分野の検証は難しいと感じている。 <p>【制度改革の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育制度の変わり目は、生徒、保護者、教員が非常に戸惑っている。 	(4) 男女共学化について	<ul style="list-style-type: none"> ○制度改革の意図が実現されているか。 ○制度改革により生じている課題は何か。 例)制度変更の周知状況、施設設備の対応状況、同窓会・地域住民等との関係 等 ○今後の制度改革に当たって教育庁・各高校がすべきことは何か。 	【諮問理由から関連部分抜粋】 (前略)「男女共学化」など本県高校教育の制度・枠組みを変更するものであって生徒及び保護者に与える影響が大きいもの(中略)について、(中略)諮問するものです。
平成22年度入試から、全県一学区制を導入する。			<p>【検証対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全県一学区化の成果は、もう少し様子を見る必要がある。 <p>【制度改革の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育制度の変わり目は、生徒、保護者、教員が非常に戸惑っている。(再掲) ○全県一学区化は、数年すれば落ち着くと思う。 ○全県一学区化により、高校のPR意識や魅力づくりの点で成果があった。 【制度設計・施策展開における要望等】 ○全県一学区化は、選択拡大というメリットがある一方、地域拠点校からの流出圧力も同時にあり、対策が必要。 ○全県一学区化に併せ、通学に係る公共交通網の充実が重要であり、その対応に当たって県教委のサポートが必要。 	(5) 全県一学区化について	<ul style="list-style-type: none"> ○制度改革の意図が実現されているか。 ○制度改革により生じている課題は何か。 例)制度変更の周知状況、通学手段の確保 ○今後の制度改革に当たって教育庁・各高校がすべきことは何か。 	【諮問理由から関連部分抜粋】 (前略)「男女共学化」など本県高校教育の制度・枠組みを変更するものであって生徒及び保護者に与える影響が大きいもの(中略)について、(中略)諮問するものです。 *全県一学区化による影響等については、教育庁内及び高等学校入学者選抜審議会においてフォローアップしている。